

# 風の電話



『風の電話』  
© 2020映画『風の電話』製作委員会

harappa映画館 #35

「3.11を忘れない」

2021.3.10(水)18時



弘前文化センター 1Fホール

[青森県弘前市下白銀町19-4]

◎ 入場料

一般：1,000円 学生：500円

17:00 開場

18:00 上映開始 『風の電話』

20:30 終了予定

※前売り販売、予約は行っていません。  
入場の際にお支払いいただきますので、  
なるべくおつりのないようにご準備ください。

コロナウイルスの感染状況により、開催が中止になる場合がございます。ご来場の前にharappaのHPなどをご確認ください。

主催 / NPO法人 harappa (弘前市市民参加型まちづくり1%システム活用事業)  
問合せ / harappa事務局 0172-31-0195(平日9時~17時), post@harappa-h.org



npo harappa





## 『風の電話』 監督：諏訪敦彦 /2020年/139分

物語の主人公は、故郷・大槌町で東日本大震災に遭い、家族を奪われた女子高生ハル。今は広島叔母の家に身を寄せている。

ハルは故郷・大槌町に帰ろうと思いつく。旅の途中で人々と出逢い“風の電話”にたどり着いたハルは、電話の向こうでなにを聞き、なにを話したのだろう。

### -風の電話-

大槌町に住むガーデンデザイナー・佐々木格さんは死別した従兄弟ともう一度話したいという思いから『風の電話』を自宅の庭に設置した。東日本大震災以後、この電話は、「天国に繋がる電話」として人々に広まり、今も多くの人の来訪を受け入れている。



ハルのオーディションでモトーラ世理奈に出会ったとき、ハルは彼女しかいないと直感した。……ハルはモトーラ世理奈という身体を得て、映画を生き始める。『風の電話』の旅が始まった。

三浦友和の演じる男、公平はハルに「どこから来た?」と訊ねる。「大槌」と答えるハルの境遇を知った公平は、それ以上あれこれ質問することなく、ただ「食べ」という。……そのぶっきらぼうな言い方が、痛みを知る人間の愛情を感じさせる。

西島秀俊が演じる森尾という役は複雑な設定である。震災当時は福島第一原発に勤務しており、同時に津波によって妻子を失っている。……森尾は捨てたはずの福島の自宅へたどり着き、閉ざされた家の中に入ってゆく。放置された現実の家である。散乱する家財道具が生々しくそこにある。何処かに消えてしまったその家の住人の記憶を感じながらその家でフィクションを演じることに、迷いや恐れを抱かないでいることは不可能だ。



広島から1300キロの移動を経て、やがてハルが旅の終わりに「風の電話」にたどりついたとき、折しも前日までの悪天候が嘘のように晴れ、眩しい太陽の光が差し込んだ。しかし、嵐のような突風がその丘を駆け巡り、吹き流される雲が太陽の影を走らせて、「風の電話」の風景を劇的に変化させる。まるで神が存在するかのように。

諏訪敦彦著「誰も必要としていないかもしれない、映画の可能性のために」より

### ◎新型コロナウイルス感染予防対策のお願い

- ・コロナウイルス感染の可能性のある方、体調のすぐれない方はご参加をお控えください。
- ・マスクの着用をお願いします。
- ・入場時の検温と手指の消毒にご協力をお願いします。
- ・コロナウイルスの感染状況により、中止になる場合があります。

### ◎問合せ先

harappa 事務局

電話 0172-31-0195(平日9時~17時) E-mail post@harappa-h.org URL <http://harappa-h.org>